

Hiroshima Polevault Coaching Policy (棒高跳び指導者としてのマナー)

指導者代表 井上 恭治

以下の内容を棒高跳び指導者のマナーとして遵守してください。

選手が、いくら知り合いだからと言っても、所属先の選手です。講習会・教室を除き、顧問・監督から全権依頼されている場合また外部コーチなど認定を受けている場合を除き、以下の事項をよく読んで対応してください。

1 PVA 広島（広島棒高跳び教室）コーチングのマナー

- ① 棒高跳び教室（PVA 広島・広島市サタデー陸上など）内でのコーチングは、どの選手に対しても行ってもよい。ただし、試合会場では、見放すことこそ選手の成長するところである。
- ② 中体連・高体連などの大会に参加している選手は、所属校代表として参加しているため、監督・顧問など学校代表者が指導者である。国民体育大会は、国体指導者が指導者となる。
 - ・試合会場では、PVA など教室で関わっている選手を自分の選手と思って助言するべきでない。
 - 場合によっては、顧問・監督とトラブルが発生する場合がある。

2 コーチング禁止場面・内容

- ① 試合会場で、顧問から助言の依頼を受けていない場合。（「以前頼まれたから、」ではダメ、当日確認）
- ② 選手から依頼を受けても、顧問・監督の依頼を受けていない場合。（選手には「ふだん教わっていることをしっかりやりなさい」や程度）
- ③ 選手との競技中の私語（顧問・監督の積み上げや調整過程を奪ってはならない。）
- ④ 選手が自分の力で跳ぼうとしている場合。（無理に教えてはならない。）
- ⑤ 試合会場でのポール選択は、原則として本人、顧問・監督の判断とする。
- ⑥ 試合でのポールの貸与は、顧問から依頼を受けて貸与する。（選手同士の貸し借りも、顧問間連携が必要）（棒高跳び教室最中のPVA 管理のポールは、正当な使用方法による破損は弁償などさせない。）
- ⑦ 跳躍技術の最終判断は、選手や監督であり、依頼がない中での助言による失敗は、責任問題になることがあり、あくまでも自己責任とさせるのが選手の育成である。

3 試合会場で協力してもよい程度

- ① 踏切足を競技場外より見る。
- ② 跳躍の頂点を見る。
- ③ その他、ポールの選択など助言の許可を得ているもの。
 - ※ 選手生命に関わる危険な行為をしている場合は専門家として助言する。

4 その他のマナー

選手の引率は、顧問・監督が行うものであり、講習への参加を含め以下の事項を守ること。

- ① 該当選手の学校から申し込んでいる大会の引率（中学・高校）は、引率してはならない。
- ② 保護者の許可を受けていても、男性の運転する車に未成年女性1名を同乗させてはならない。女性の運転についても同様である。同乗させる場合は複数とすること。同性を同乗させる場合は、保護者の許可を受けて同乗させる。また保険など保障制度を明らかにしておくこと。（スポーツ安全保険は、自動車の移動についての事故は保証の対象外となっている。）
- ③ その他、自分で判断できない場合は、代表者や顧問に相談すること。
- ④ 試合会場で、試合が終わった後の練習については、主催者と相談のうえ、普及の為、行いましょう。
 - ・試合会場での練習は、他競技から見て特例であるので、周りから見てふざけたり、楽しんだりしている雰囲気は作らないようにする。（特例とは＝専用施設が各学校にないことによる。）